[特許] 2003-522332

[受付日]平成17.12.13

【物件名】

刊行物 1

20 刊行物」

®日本国特許庁(JP)

①実用新客出贈公開

⊕ 公開実用新案公報(U)

昭60-80717

@int,Cl,*
A 45 D 34/04

触別配号 广内整理番号

: 49公開 昭和60年(1985)6月5日

6871-3B

ME-A-M

審查請求 未請求 (全1頁)

日考なの名称

ペースト状化粧料用容器

到更 顧 昭58-173136

❷出 順 昭58(1983)11月10日.

代 東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーセ

一内

砂考 葉 者 小 木 胡 男 東京都中央区日本福3丁目6番2号 株式会社小林コーセ

一内

の出 頭 人 株式全社 小林コーセ 東京都

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

砂実用新業登録請求の範囲

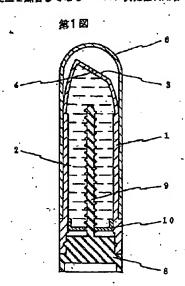
- (j) ベースト状化粧料を収容する口紅型状収容体 の上部に並布面を形成し、酸量布面の中央部に 関口部を掌配し、
- (j) かつ、前室口紅型状収容体の基部に台座を回 転自在に連結し敗台座に螺子杆を立設して前配 口紅型状収容体内に起立せしめ、散螺子杆に可 動受皿を螺合してなるペースト状化粧料用容

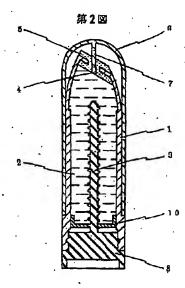
₩.

図面の簡単な説明

第1回は本考案の一実施例の挺断面図、第2図 は他の実施例の挺断面図である。

1……口紅型状収容体、2……ベースト状化粧料、3……盆布面、4……閉口部、8……台座、9……似于杆、10……可動受血。





⑩日本亜特許庁(JP)

①実用新常出廳公開

母 公開実用新案公報(U)

昭60-80717

@Int.Cl.

體別記号

厅内整理香号

❷公開 昭和60年(1985)6月5日

A 45 D 34/04 40/26 6671-3B

客查請求 未請求 (全 質)

❷考案の名称 ペースト状化粧料用容器

④実 顧 昭58-173135

❷出 顰 四58(1983)11月10日

Ø考累者 多比聚 春f

事代 東京都中央区日本福3丁目6番2号 株式会社小林コーセ

一内

東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーセ

一内

②出 夏 人 株式会社 小林コーセ

東京都中央区日本橋3丁目6番2号



明 細 曹

1,考案の名称

ペースト状化粧料用容器

- 2.実用新案登録請求の範囲
- (i) ペースト状化粧料を収容する口紅型状収容体の上部に塗布面を形成し、鉄盤布面の中央部に関ロ部を穿殺し、
- (ii) かつ、前記口紅型状収容体の基部に台座を回転目在に連結し該台座に螺子杆を立設して前記口紅型状収容体内に起立せしめ、該螺子杆に可動受皿を螺合してなるペースト状化粧料用容器。

. 3.考案の詳細な説明

本考案は、ペースト状の口紅・アイシャドウ・ファンデーション・美容被・ほほ紅等の容器に関し、その意図するところは、本考案を利用し携帯性・使用性に富んだペースト状化粧料用容器を提供するものである。

従来、ペースト状化粧料の容器形態としては、 キャップにより密封した幾体もしくはチュープ体 がその殆どであった。それ故、消費者がペースト

1



状化粧料を使用する場合、筆もしくはスポンジチップ付筆等を必要とし、化粧に手間がかかり不便であり、この点の改善が切望されていた。加うるに、通常の集体、キャップ体にあっては、形状的に新味に乏しく、新豊老の多様な暗肝に答えるには不充分であった。

以下、本考案の構造をその実施例を示す図面に 基づき説明する。

1 はペースト状化粧料2を収容する口缸型状収



容体であり、その上部に整布面 3 が形成されてい ぐる。 4 は該筆布面 3 の中央部に穿扱された閉口部であり、口紅型状収容体 1 内に収容されているペースト状化粧料 2 が外部に押し出される参出口である。

また、第2回に示す如く塗布面3に閉口部を有する無性塗布体 5 を覆設すれば、ペースト状化粧料2の塗布がより容易かつ便利になる。弾性塗布体 5 の塗布面3 への覆設方法は、貼着方法、嵌着方法等その手段を問わない。

6はキャップであり、口紅型状収容体1に若脱自在に嵌着している。また、第2回に示す如くキャップ6の内面中央部に、閉蓋時に塗布面3中央部の関口部4を對止する気密用ボス7を突設すれば、携帯時に於けるペースト状化粧料2の関ロは、ペースト状化粧料2が流動性の高いものであったり、揮発性の高いものであるときには特に有効である。

8 は台座であり、口紅型状収容体1の基部に回



転自在に連結している。また、台座8の上部中央には螺子杆9が立設されており、口紅型状収容体1内に起立せしめられている。さらに、螺子子皿10は、口紅型状収容体1内に嵌合内装されてとなり回動を阻止されて昇降自在となっている。この回動阻止手段は、例えば、口紅型状収容体1と可動受皿10とに凹凸条等を緩設して接合することにより行なわれる。

なお、ロ紅型状収容体1を透明な樹脂等で成型 すれば、収容されているペースト状化粧料2の色 が外から見えて視覚的な美感が得られ、またペースト状化粧料2の残量も確認できるので便利である。

ペースト状化粧料2の充壌は、口紅型状収容体1の上部の関口部4から充壌すればよい。また、 閉口部4の大きさはペースト状化粧料2の粘度及び種類並びに一回の使用量等の条件により適宜選択すればよい。

水考裏は以上の加く構成したので、これを使用



する場合、キャップ 6 を外し、台座 8 を回転して 可動 受風 1 0 を上昇させ、ペースト状化粧料 2 を 口紅 型状収容体 1 上部の関口部 4 から締出させ、 塗布面 3 もしくは弾性塗布体 5 にて化粧機作を行 なうことができる。

以上許述した如く、本考案のペースト状化粧料 用容器は、従来の軽状あるいは、チューブ状のも のに比して、その携帯性、使用時の簡便性が遙か に優れ、外出先等での化粧が非常に便利にな る。

すなわち、従来・ペースト状化粧料を増布する 場合、毎もしくはスポンジチップ付筆等が必要で あったが、本考案を利用すれば容器から直接使用 部位に整布できるので便利である。さらに、本考 案は口紅型状に形成してあるので、塗布面3にて 容易に銀や面を描いたり、ペースト状化粧料2を のばしたりでき、形状による違和感も全くない。 また、繰出容器でもあるので、ペースト状化粧料 2の量を調節することも容易である。

4. 図面の簡単な説明



第1図は本考案の一実施例の経版面図、第2図 は他の実施例の経断面図である。

1 … … 口缸型状取容体

2……ペースト状化粧料

4 期口部

8 … … 台座

g ……蝎子杆

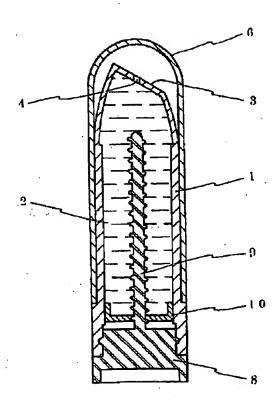
10 … … 可勤受证

L L

出頭人 株式会社 小林コーセ~

 γ

97 × 97

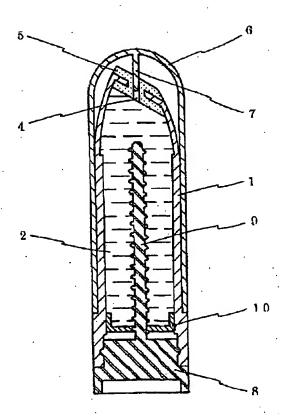


136 集門60~56717

101

公開実用 昭和60- 80717

第 2 图



137

NOTE OF BUILDING

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

□ OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.